

医師に働き方等に関する意識調査 結果概要 ver.1

1. 背景・目的

現在、女性医師は増加傾向にあるが、ライフイベントとの両立等、勤務環境はまだ十分に整っていないとは言えず、出産・育児を機に休職する女性医師もまだ多い状況である。将来のキャリアを考える上で、女性医師が置かれている状況や将来について不安を抱えている。学生がキャリアパスを描くためには、将来どこで働くか、どのように働くかを決定する上で、医師の勤務環境の現状を知ることが重要なことである。

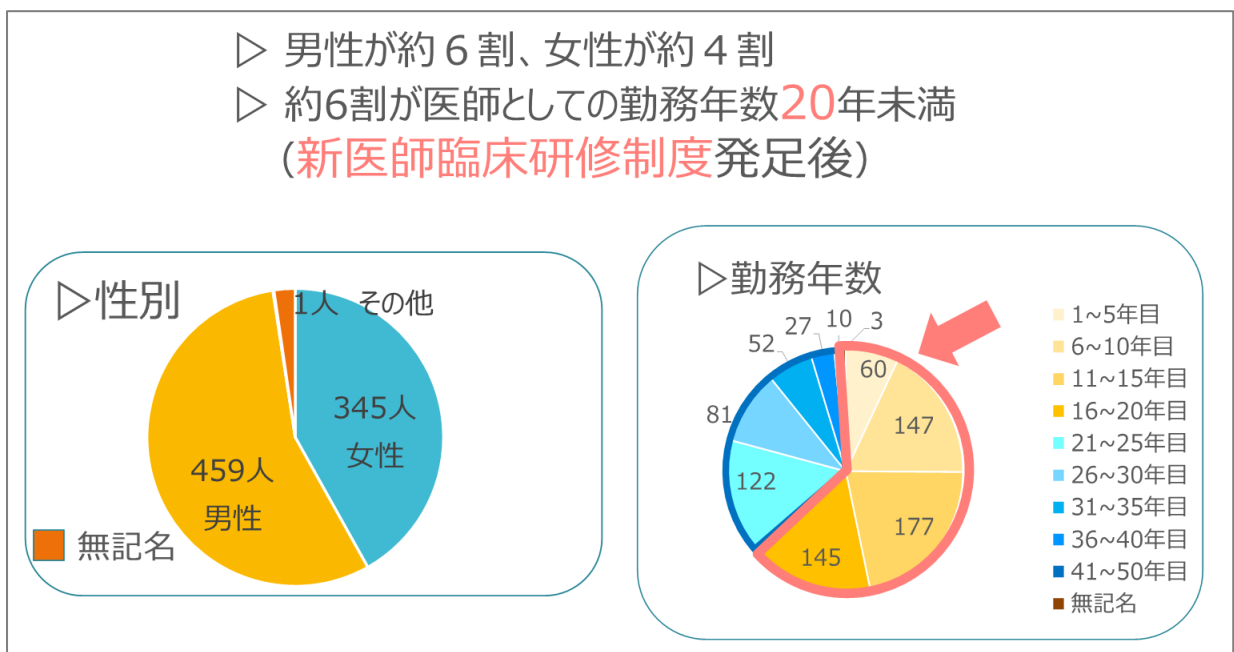
そこで本研究により、大分大学出身あるいは全国の医師に行うことにより、現在の職場を選択した理由や現状の働き方について、またライフイベントとの両立での課題等、解決方法を調査することによって、将来、診療科や働く場所を選択する場合重視すべき点や、現時点での課題の抽出により、将来への不安を払拭し、これからの必要な支援やキャリアパスを描くための基盤とすることを目的とする。

2. 方法

大分大学医学部倫理委員会に承認を得た（承認日：2022年4月25日 承認番号：2291）。アンケートは無記名式で、各質問項目について、選択式と自由記述式を採用し、アンケート内容（進路の決め方について・ライフイベントとの両立について・学生の間で考えておくこと・メッセージ）に従い、Google フォーム、紙媒体、メールのいずれかで5/20～6/17の間に回答していただいた。主な属性については記入を必須としているが、その他の項目の回答は任意としている。解析方法は、回答者の属性（性別、勤務年数、出身大学都道府県）、意識等について割合を数値化・グラフ化により分析する。さらに、新医師臨床研修制度発足を基準として、勤務年数20年未満と20年以上を、あるいは性別等で比較した。記述内容のキーワードから WordCloud 図を Python:WordCloud ライブラリを用いて作成により可視化した。

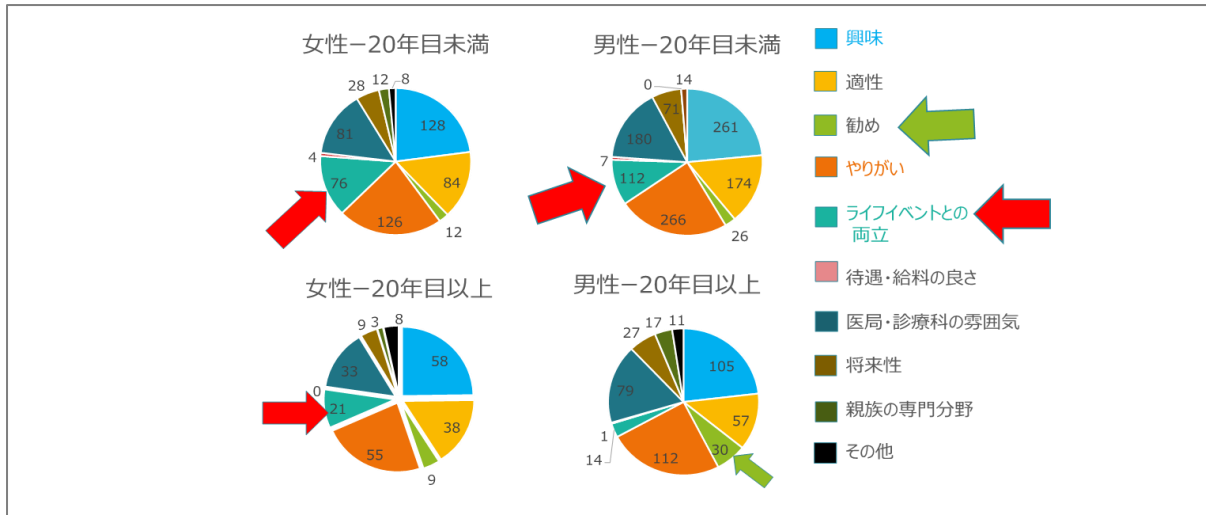
3. 結果

824名の医師から回答を得られた。回答者の属性については、男性が約6割・女性が4割、勤務年数は約6割が医師としての勤務年数20年未満（新医師臨床研修制度発足後）であった。



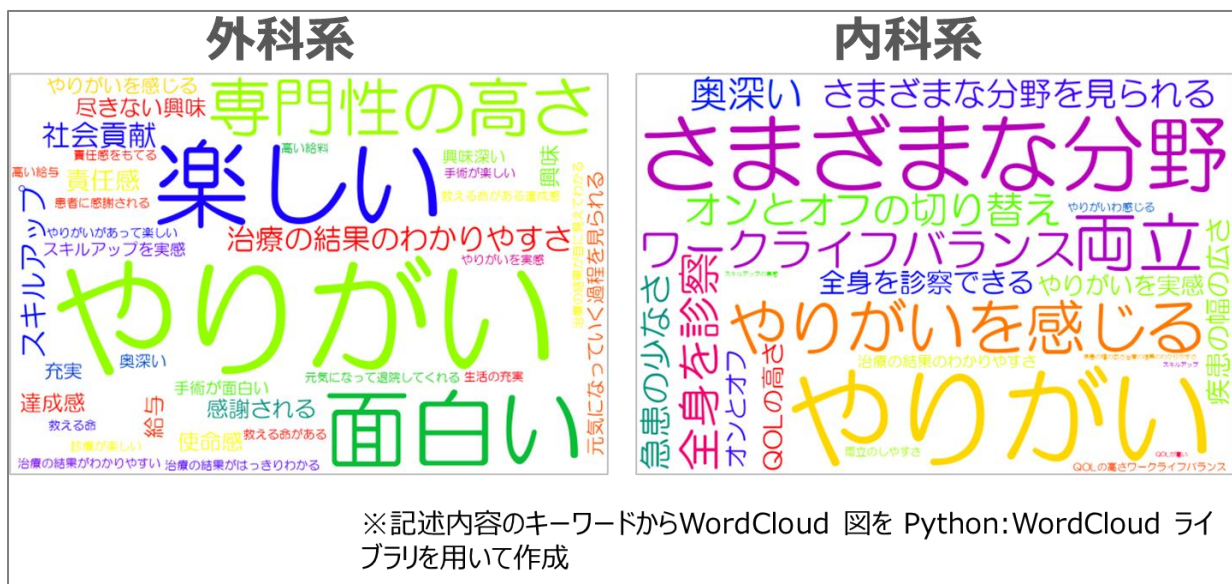
[1] 進路に決め方について

診療科の選択において、興味ややりがいを重視しながら、勤務年数 20 年未満では卒業後に自身の経験を通して、勤務年数 20 年以上では、病院実習時に経験や助言をもとに決定する医師が多かった。差異が見られたのは、勤務年数 20 年未満では、ライフイベントとの両立を重視することであった。勤務病院の選択において、教育・実践重視であること・指導医や先輩の研修医の人柄を重視しながら決定する。差異が見られたのは、勤務年数 20 年未満では待遇や給料、20 年以上の女性医師は高度で専門的な医療を重視することであった。



診療科を決めた時期は、勤務年数 20 年未満の医師は卒業後、20 年以上の医師は病院実習時が最も多かった。

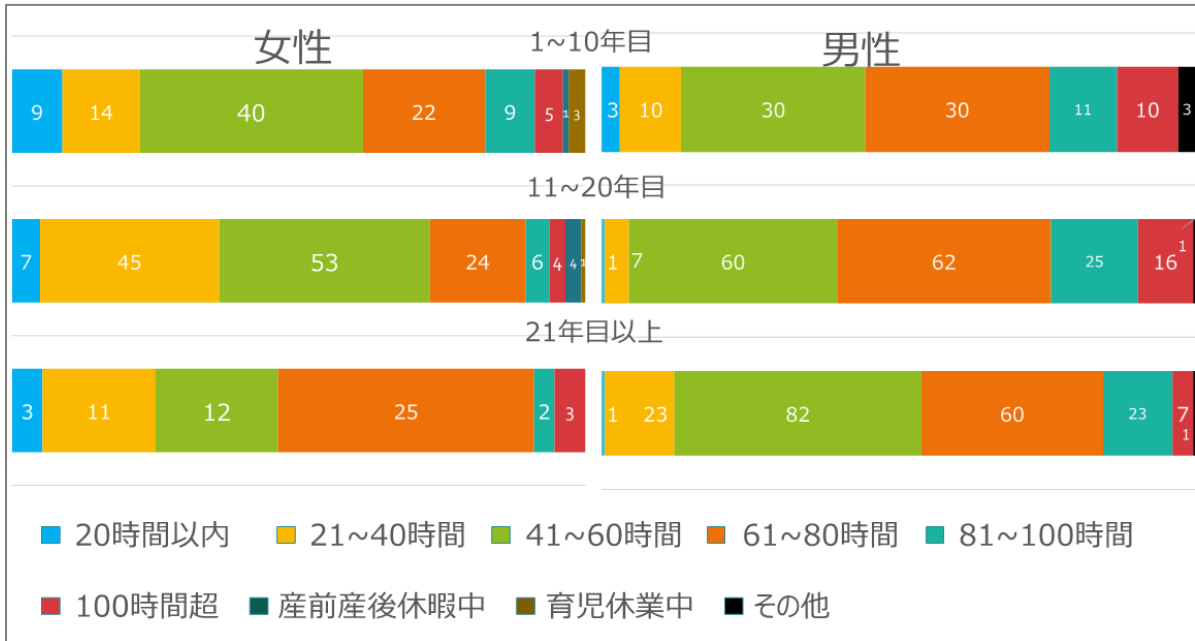
診療科の魅力について、多くの医師が「やりがい」を挙げていたが、外科系と内科系で異なっていた。



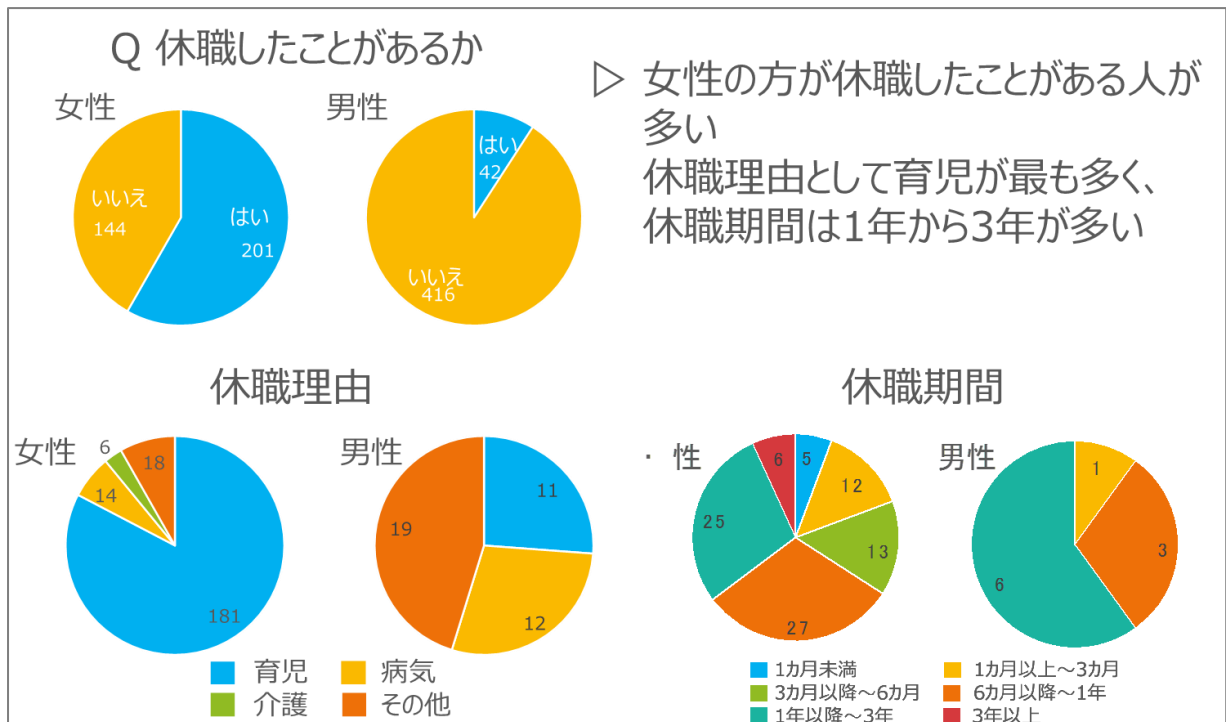
臨床研修病院決定には、勤務年数・男女問わず教育・実践重視・指導医や先輩研修医の人柄が多く、勤務年数 20 年以上の女性は高度で専門的な医療、20 年未満では男女共に待遇・給料を重視していることが特徴的であった。

[2] ライフイベントの両立について

男女問わず9割以上仕事をしており常勤は多いが、非常勤は女性のほうが多かった。
 男性は勤務年数に関わらず週60時間以上労働しており、女性は勤務年数20年目以上で長時間働いている傾向にあった。



女性の方が休職したことがある人が多く、その理由として育児、期間は1年から3年が最も多かった。



休職を経て復職する際の不安としては育児と仕事の両立、知識の欠如、技術の低下、子供の病気等による欠勤、仕事に対するブランクが挙げられており、復帰の手助けとなった支援として保育施設、周囲の理解、休める、短時間勤務、教育プログラムが多かった。

